

【日本赤十字社】

日本赤十字社との活動について

明治学院が横浜にヘボン塾を開いてから150年に当たる2013年は、赤十字の歴史においても五人委員会が誕生し、赤十字規約、赤十字の標章が決められた節目の年でもあった。4月5日には「日本赤十字社・明治学院大学共同宣言－ボランティア・パートナーシップ・ビヨンド150－」というパートナーシップを結び、調印式を行った。共同宣言文の序文は次のとおりである。

【共同宣言文】

150年の時を経て、今もなお、創始者のボランティア精神が息づく日本赤十字社と明治学院大学。

私たちは今年、記念すべき年を迎え、これからの日本を、世界を思い、
ともに力を合わせて行動を起こします。

日本赤十字社が展開する人道支援活動は、地震・台風・火災などの国内災害支援、地域や人のニーズに応じた社会福祉活動、病気やけがの治療のために血液を必要としている人に対して献血活動を通じて医療機関に届ける血液事業、国外で災害・病気・戦争により苦しむ人々を支援する国際活動、身近なところで発生する事故・けがに対応すべく知識・技能を学ぶ講習活動など多岐にわたっている。赤十字は名称は変われども世界各国で同様の活動を展開している。

日本では、東日本大震災発生後、国民の多くが現地で足を運んだり募金など何らかの形で支援した。しかし震災後3年になろうとする今、復興半ばの現状にありながら支援の熱は冷めているのが現状である。また若年層のボランティア全般への関心は必ずしも高いとはいえない。しかし、大勢の学生がボランティア活動を行っている明治学院大学には、日本赤十字社が求めるニーズに応える下地がある。

昨年夏に開催された北海道ルスツリゾートを会場に行われた「サマーキャンプ」（東北3県の子ども約2000人が参加）は、共同宣言後初の企画であったが、10名の派遣枠に対して70名を越える学生からの応募があった。同時期に白金キャンパスで開催された若者向けボランティア啓発イベント「JOIN！赤十字はあなたの力を待っている」では、AKB48グループのタレントとともに30名を越える学生がボランティア活動への参加を呼びかけた。このイベントではこうした日本赤十字社の活動に携わるためにボランティアセンターの元で結成された「明学レッドクロス」も紹介された。明学レッドクロスのメンバーは救急講習や日本赤十字社本部見学などで学びながら、年末恒例の「NHK海外たすけあい」運動に企画から参加するなど徐々にではあるが活動の幅を広げている。

次頁からは今年度の活動に参加した学生4名による活動報告である。いずれも今後の活動に期待が持てる内容である。ご一読いただきたい。

(波多野)

(参考資料)

- ・赤十字情報プラザ 図書・史料展示・情報公開[ご案内]
- ・INTERNATIONAL RED CROSS 2013 (日本赤十字社)

明学レッドクロス

【明学レッドクロス発足】

本年は、赤十字思想が誕生 150 周年であり、また明治学院は創立 150 周年という記念すべき年であった。日本赤十字社と明治学院大学（以下明学）はボランティア・パートナーシップを結び、今後ともに活動を行っていく事を宣言した。これとともに今夏に発足したのが「明学レッドクロス」である。初期メンバーは9名であったが、現在では19名となり活動のさらなる活性化を目標としている。

【本年度の主な活動内容】

まず、今夏に日本赤十字社の2013年度の新キャンペーン「JOIN! 赤十字は、あなたの力を待っている。」の記者発表会が白金校舎で行われた。この記者会見には、震災当初から継続的に東北支援を行っているAKB48の渡辺麻友さんと、SKE48の木崎ゆりあさんが参加し、多数のメディア機関が来校するなど、大々的な記者会見となった。また二人は、学生とともに炊き出しを行い、塩むすびと復興支援活動を展開している岩手県大槌町吉里吉里地区の郷土料理「こまこま汁」を作った。

10月、白金校舎で行われた献血の際には、明学レッドクロスと海外プログラム事業部がともに献血促進のためブラカードを持って宣伝活動を行った。白金キャンパスの献血活動に学生が参加するのは今回が初めてであり、今後も若者の献血活動促進に努めたいと考えている。

12月には大森支社での講習会と、日本赤十字社の本社見学に参加し、社員の方々から赤十字の歴史や今までの主な活動内容、今後の展望についての説明をしていただいた。メンバー一同、日本赤十字社に対する知識を深め、今後の活動におけるヒントを得る事ができたと感じている。また、今回の見学で創立150周年である他にも多数の共通点がある事を知り、明学レッドクロスとして活動する事の使命感を再認識できた場ともなった。新しい団体であるからこそ、明学レッドクロスの今後の可能性は無限大である。今後も知名度、普及活動のさらなる貢献に努めたい。



日本赤十字社本部社員との集合写真



日本赤十字社社員からの説明を受ける様子

(経済学部国際経営学科2年 中島由葵)

サマーキャンプ



2013年8月に東北3県の子ども達を対象としたサマーキャンプに参加した。今回のサマーキャンプへの参加は非常に責任感を感じると同時に子どもという存在の大きさを感じるキャンプだった。震災を経験した子ども達が参加し、また、心に傷を負っている子がほとんどで、その中での彼らへの接し方には慎重になった。また、今回の子ども達の参加は彼らの家族の思いが詰まっているキャンプであり、「子ども達にとって一生の思い出に

残るようなキャンプにしたい」そのような思いで臨んだ。最初、子ども達は人見知りが激しく、一緒のグループの子ども打ち解けずにいる。しかし、時間が経つにつれて、子ども達は周りに多くの友達を作っていた。それと同時に笑顔も増えていった。子ども達が笑顔で、無邪気に外で遊ぶ姿を、今でも覚えている。私もその姿を見て楽しい気持ちと幸せな気持ちが心の中にあった。そこで「震災の被害にあった子ども達」ではなく「無邪気に



遊ぶ子ども達」に気持ちが変わり、自分も一緒になって走り回った。単純に楽しかったのを覚えている。「この子ども達が住んでいる町の方達も同じような気持ちなのだろうな」と感じた。子ども達の元気な姿を見ていると楽しくなり、幸せな気持ちになる。その気持ちが町の人々の元気にもつながるのかなと感じた。

子どもは地域にとってかけがえのない存在である。今回のキャンプでの子ども達の笑顔や思い出は、彼らの住んでいる地域の人達に元気や勇気を与えると信じている。震災からの復興に子ども達の笑顔は欠かせない。このキャンプの終わり際、子ども達から一人ひとりメッセージを頂いた。メッセージには「一緒に遊んでくれてありがとう」「みんなを笑わせてくれてありがとう」「仲良くなれてうれしかった」と書いてあった。大人も子ども達と一緒に楽しむ。それが地域にとっても、子どもにとっても大切なことなのだと感じた。

(学生メンバー 国際学部国際学科2年 若松健太)

JOIN!

【概要】

この活動は、4月にボランティア・パートナーシップを結んだ本学が日本赤十字社に全面的に協力し、日本赤十字社による、若者へ向けたボランティア啓発キャンペーンのPRの他、炊き出し訓練を白金キャンパスで行ったものである。新たに発足した明学レッドクロスを紹介をした。

【活動内容】

日本赤十字社のオフィシャルメッセンジャーを務めるAKB 48グループの渡辺麻友さんと木崎ゆりあさんが登場し、ご自身が参加した赤十字でのボランティア体験を伝えながら、ボランティア活動への参加を呼びかけた。赤十字と連携しボランティア活動を行うため新たに結成された私たち「明学レッドクロス」のメンバーも登壇し、今後の活動への抱負と意気込みを熱く語った。また、炊き出し訓練では本学学生達が定期的にボランティア活動で訪れている岩手県大槌町吉里吉里地区の郷土料理「こまこま汁」と塩むすびを配り、日ごろの訓練の重要性を互いに確認することができた。

【感想】

日本赤十字社との連携ボランティア活動の為の決意表明の場であった。当日は想像をはるかに超えた報道陣や赤十字社の社員の方々があり、しっかりと活動していかなければならないと感じた。活動内容がはっきりしていない中での決意表明であった為、インタビュー等でははっきりしたことが伝えられず残念だった。ボランティア活動には今後さらに若者の力が必要とされていると感じるので、本学の明学レッドクロスから日本赤十字社のボランティア活動、その他ボランティア活動を若者に呼びかけていきたいと感じた。明学レッドクロスとして今後積極的に活動していきたい。



JOIN! 集合写真



炊き出し訓練、塩むすびを作っている様子

(社会学部社会福祉学科3年 藤田好美)

海外たすけあい

海外たすけあいボランティアのメンバーは16人。そのうち、明学生はおよそ7割を占めていた。

他大学では、明治大学・中央大学・跡見女子学園大学などから来ており、日本赤十字社での活動をサークルで行っている人が多く、そのノウハウもあってか活動はとてもスムーズに行われた。

活動では、主にチラシ・動画・アンケート・募金チームなどに分かれ、掛け持ちをしたり、お手伝いをしたり、その時々で楽しみながら活動ができた。特に、シンポジウムのお手伝い等もメンバーへ要請があった為、チラシとアンケートは多く配布され回収できていた。

印象に残っているのは、日本赤十字社の近衛忠輝社長にインタビューする機会を持てた事と、募金活動ができた事である。インタビューでは、堅苦しいものだけでなく学生生活や仕事で行った先で楽しかった国やおいしかった料理など、さまざまなお話が聞けた。特にワニを食べた話は興味深く、品種によって味が違うのか自分でも確かめに行きたくなるほどだった。また、赤新月などの新マーク作成の秘話など、なかなか聞けない話をたくさん聞くことができ、とても楽しかった。（写真：日本赤十字社提供）



近衛社長とともに記念撮影



街頭で募金を呼びかける様子

募金活動は、職員の方の手を借りながら横浜駅や品川駅などの主要な駅で土・日、13時から2時間ほど街頭募金を行った。人通りの激しい中、声をかけ続ける気力や、ちらりと一瞥される圧力に耐えながら立つ2時間は大変だがとても楽しく、どうすればより募金がしやすく、気持ちよく募金ができるのか、とても考えさせられる活動だった。

日本赤十字社では献血や病院事業などがよく知られているが、海外への人道支援はあまり知られていないようだ。

これをキッカケに、多くの人に海外たすけあいについて知ってもらい、もっと国内外の支援活動について知ってもらえるよう、今後も活動を続けていきたいと思う。

(社会学部社会福祉学科1年 酒井昂社)

画像でふりかえるサマーキャンプ

ルスツリゾートでの活動の様子をスタッフの目線でまとめた。



【キャンプ前日】スタッフ対象の事前講習



【第1日】入村式の様子



【第2日】毛布を使っでの担架搬送訓練の様子



【第3日】選択プログラムでクライミングに挑戦



【第3日】選択プログラムでレザーワークに挑戦



【第4日】最終日にスタッフとして見送り

画像提供：日本赤十字社